

59 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(30)

—旧近藤家住宅長屋門—

29 期 仲田 元昭

今回は、東葉高速鉄道「飯山満駅」より徒歩5分程にある国登録有形文化財である「旧近藤家住宅長屋門」と、文化財には登録されておりませんが船橋の奥座敷、北総線小室駅より約徒歩10分程にある旧小野田村の「角頼家長屋門」をご案内します。

「長屋門(別名：屋敷門)の歴史」

長屋門は江戸時代初期、大名が自分の屋敷の周囲に、家臣などのための長屋を建てて住まわせていましたが、その一部に門を開いて一棟とした物が長屋門の始まりで、大名や武家屋敷表門として広く利用されるようになり、門の両側に門番の部屋が置かれました。

現存する有名な屋敷門としては通称東大赤門と呼ばれている加賀100万石前田家上屋敷門や、黒門と呼ばれている因州鳥取藩32万石池田屋敷表門が明治23年に国立博物館に移築され、共に国の重要文化財に指定されています。江戸時代後期になると、大名だけでなく庄屋や豪農にも長屋門を作ることが許され、多くの長屋門が作られるようになりました。

「東葉高等学校正門(旧近藤家住宅長屋門 国登録有形文化財)」

上飯山満村(現在の飯山満町2・3丁目あたり)の旧家近藤四郎左衛門家の屋敷の門として使われていたもので、桁行11間2尺(約20.6m)、梁間2間半(約4.5m)を測る長大なものです。

築造年代がわかるものは残されていませんが、造りなどから明治中期頃の建立と推定されます。

東葉高等学校が近藤家の屋敷跡に建設されるのにあわせて修復され、現在、「東葉門」の名称で同校の正門として活用保存されています。



「旧近藤家住宅長屋門 市HPより」

「旧小野田村角頼家長屋門」

船橋の最北端、旧小野田村は江戸時代初期二代将軍秀忠より475石を賜った小野田城主佐橋吉忠がこの地周辺を支配していたと言われ、城主の物と伝わる鎧兜を保存していた数百年の歴史をもつ旧家角頼家の昭和に再建された立派な長屋門です。

船橋は都市化が進んでいますが、ここ旧小野田村にはのどかな田園風景が残っております。



「船橋北部旧小野田村 角頼家長屋門」